

本殿

丹生宮省符神社の本殿は重要文化財に指定されています。三棟の社殿（神を祀る独立した建物）は、一部が明るい朱色の塀の後ろに隠れています。

右手の建物には高野山の守護神である丹生都比売という女神とその息子である高野御子（狩場明神）が祀られています。中央の建物は、食糧を司る女神大食津比売を祀っています。最後の建物に祀られているのは、音楽と財の女神である弁財天の一形態とされる市杵島比売です。

本殿の建築と装飾は極めて精緻です。和歌山県の宮大工（神社の建設と補修を専門にする熟練の大工）は昔から高い木工技術で名をはせてきました。近隣の京都や奈良の宮大工に比べると、和歌山の宮大工は新しい技術を試したり発展させたりする自由が与えられていました。

みすばらしい建物に祀るのは神々に対して失礼にあたるため、神社は通常定期的に建て替えられます。この伝統には、宮大工の技能や技術を新しい世代に継承させるという利点があります。緻密な彩色や優雅なつくりを伴う現在の本殿の見た目は、江戸時代（1603-1868）とほとんど同一です。